

特集

町長と語る会(ふれあいトーク)結果報告

広聴事業の一環として、10月27日、29日、30日、31日、11月7日の5日間にかけて、「町長と語る会(ふれあいトーク)」が開催されました。

公募による参加者と町内で活動する各種団体から推薦を受けた代表者が、それぞれ「産業の振興」、「教育・文化」、「子育て」、「福祉・協働」、「安心安全・男女共同参画」を主なテーマとして、町長と直接話し合いを持ち、多くの「意見・提言等」が出されました。

いただいた貴重な「意見等」は庁内で検討し、今後のまちづくりの反映させてまいります。

主な意見等と回答(要旨)

●産業の振興について

問 農業後継者および担い手の対策について、どのように考えるか。

答 全国的な問題であり、国の新たな支援策が必要。関係機関と連携を図りながら、担い手の育成支援、後継者を確保し、農業の振興と活性化に努めたい。

問 学校給食に上三川町産の牛肉を使用出来ないか。

答 極力、地元産を使用するよう給食会に働きかけたい。

問 人を呼び寄せる活性化を図って欲しい。宇都宮市で餃子やジャズが定着しているように、上三川町オリジナルのものがあれば人が来る。

答 商工会だけでなく、町民と意見交換をしていく場を設けたい。

問 優良企業の誘致は進展しているか。

答 震災による被害が少なかったため、立地条件が良いと評価されている。PRを推進していきたい。

●教育・文化について

問 中心拠点構想により、生涯教育・多目的ホールの建設計画があったと記憶している。現在までの進捗状況と今後の取り組みについて。

答 町の第6次総合計画後期基本計画により、(仮称)生涯学習センター建設の調査を進めることになっている。税収の落ち込みで施設を造るめどがつかないが、将来に向けて調査研究は今後も続けていく。

問 まちかど博物館の展示替えをして欲しい。

答 まちかど博物館は、平成16年に展

示を始めて以来、展示替えを行っていない。今年度中に入れ替えを行いたい。

●子育てについて

問 児童医療費助成について、3歳以上でも受診時に窓口での医療費を支払わなくてもよいように現物給付方式にしてほしい。

答 3歳未満の子ども医療費の給付は、県の制度で実施している。現物給付の対象年齢を拡大することは、町単独では困難なため、県の制度で実施するよう、引き続き県に要望していく。

問 小中一貫教育について、町で検討・研究しているもの、あるいはその考え方について。

答 本郷中学校区では、小中一貫の新しい教科づくり「みらい創造科」を創設し、平成22年度から3年間研究に取り組んでいる。小中の先生方がより密接に連携を図りながら、児童生徒にとっての小中間の段差を少なくする取り組みを、なお一層推進していきたい。

問 温暖化の影響で、夏場は教室が36度以上になり大変と聞いている。空調設備の設置をお願いしたい。

答 先に学校の耐震工事を進めて、安全な校舎だという担保が取れてから、空調設備を検討したい。

問 小中学校で活躍した個人・団体について、もっと広報紙などを通じて町民にお知らせしたらどうか。

答 優秀な人材、もしくは活躍された方など、どんどん取り上げて町民の皆さんにお知らせしていきたい。

●福祉・協働について

問 社会福祉協議会の日常生活外出支援ボランティア事業ですが、利用者は大変少なく、全体のPR不足が窓口の問題があるのではないか。この外出支援活動が将来、気楽に利用したりできるようにPR等の後押しをお願いしたい。

答 せっかくながら立ち上がった事業ですから、サービスの受け手にきちんと周



活発な意見の交換が行われました。

特集



星野町長に直接質問を投げかけました。

知できるように努力していきたい。
問障がいの子を持つ親は、親なき後が最大の悩み。生活ホーム、グループホームの設置をお願いしたい。
答上三川ふれあいの家ひまわりの運営を軌道に乗せ、それをきっかけに、近隣の社会福祉法人に、町内でグループホーム等の事業をしてもらえよう、関係機関に働きかけをしていきたい。
問給食サービスの活動をしていて、独居老人のところに配達したときにひと声掛けてくるが、そういった方の安否等の確認について。
答安否確認緊急通報システム貸与事業があるので利用してほしい。また、民生委員さんや在宅支援センター、社会福祉協議会など常連に連携をと

りながら、緊急な事態にならないように取り組んでいきたい。

●安心安全・男女共同参画について

問町には防災計画があると思うが、現実に機能するものでなければならぬ。そのためには、各地域で避難訓練を行うことが重要であると思う。町では実施しているのか。
答町では、毎年、小学校、病院などを会場として、地域の皆様に参加いただいで、炊き出しやヘリコプターによる救助などを取り入れた避難訓練を実施している。

問町には、防災無線が無い。水害、火災、地震など、災害についての情報が入ってこない。防災無線を設置する考えは。
答防災無線で、町内全域に音声が行き届くようにするためには、スピーカーなどの設備を77カ所設置しなければならず、維持管理も必要となるので、莫大な経費がかかる。台風の際は、風雨の音が大きく、雨戸を閉めたり、防災無線の音声が聞こえない場合や停電時の問題もある。少ない投資で、効果のある別の方法も含めて検討していく。

問町職員の男女共同参画について、職員の男女割合、管理職の男女割合はどのようになっているか。
答平成23年度における全職員数は2

16人で、うち男性は133人、61.6%、女性は83人、38.4%である。管理職は全体で29人であり、うち、女性は1人、3.4%である。

●その他について

問放射線について
問原発事故による放射能汚染について、今後、何か問題が発生した際は、適切な対応をお願いしたい。
答6月7日から毎日1回放射線を測定してホームページで公表しており、現在のところ、数値は安定している。年間被ばく線量が1〜20ミリシーベルトの地域は、汚染状況重点調査区域として指定されるが、本町は該当せず、除染は必要ない。しかし、空中の線量測定は継続していく。

問食べものの検査態勢について。
答農産物等については、すべてモニタリング検査を通じたものでないと市場に出ない。暫定の規制値を上回るものがあれば、すぐ出荷停止となり回収ということになるので、安全なものも流通している。

問容融スラグについて
問上三川高校のPTAがとても心配している。広報などで詳しく説明したらどうか。よく分からないので、不安になっている。
答スラグの周知に関しては、皆さんへのお知らせが完全ではなかったと感じている。広報等でお知らせしていく

が、心配な点があれば、詳しくご説明しますのでご連絡いただきたい。
問県央浄化センターに搬入された下水道汚泥スラグは、いつまで保管されるのか。
答下水道汚泥スラグを処分する場所は、栃木県内にはなく、県は処分場の確保について国に要望していくとのこと。いつまで保管されるのか返答出来る状況ではありません。

皆さんの『声』をお聞かせください

町では、「町長と語る会」開催のほか、さまざまな方法により皆さんからのご意見・ご提言を受け付けています。

『町長への電子メール』は上三川町公式ホームページから、『町政にあなたの声を』については、役場町民ホールに意見箱を設置しています。また、封書やハガキでも受け付けています。ぜひ、皆さんのご意見・ご提言をお寄せください。

▼問い合わせ先

企画課 情報広報係

☎9117

メールアドレス=chouchou@town.kaminokawa.tochigi.jp